

広報 No.79

# 県立三好病院

平成22年9月・10月号

今月の特集：子宮頸がんについて

産婦人科外来

4階病棟



～県立病院事業基本理念～

県民に支えられた病院として県民医療の最後の砦となる

新任医師紹介



循環器内科  
蔭山 徳人医師



消化器内科  
武市 和憲医師



消化器内科  
齋藤 梓 医師



内科  
横山 靖浩医師



整形外科  
鹿島 正弘医師

発行 徳島県立三好病院 広報委員会 〒778-8503 徳島県三好市池田町シマ 815-2  
TEL 0883-72-1131 FAX 0883-72-6910 HP <http://www.tph.gr.jp/~miyoshi/>

# 子宮頸がん予防ワクチンとHPV(ヒトパピローマウイルス)

産婦人科

長谷部 宏

## 子宮頸がんをご存じですか？

子宮がんには2種類あり、子宮の入り口付近(子宮頸部)にできるがんを「子宮頸がん」、子宮の奥(子宮体部)にできるがんを「子宮体がん」といいます。日本では年間約1,500人が子宮頸がんを発症し、約3,500人が死亡していると報告されています。女性特有のがんとしては乳がんに次いで発症率が高く、最近では20~30歳代の若い世代に急増しています(図1)。

子宮頸がんは初期の段階では自覚症状がほとんどなく、不正性器出血などの症状が現れた時にはかなり進行しているケースも少なくありません。しかし、がんになる前の状態である「前がん病変」の段階で発見されれば、ほぼ100%完治し、その後の妊娠や出産にもほとんど影響がありません。



図1

## 子宮頸がんはウイルスの感染が主な原因

また、子宮頸がんは、ほぼ100%が「発がん性HPV(ヒトパピローマウイルス)」というウイルスの感染によって起こることが判明しています。約100種類存在するHPVのうち15種類が発がん性HPVと呼ばれ、子宮頸がんの発生に関与しています。この発がん性HPVの中でも、子宮頸がんから特に多く検出されるのがHPV16型と18型の2つのタイプです。HPVは主に性的接触により感染しますが、感染自体はとてふありふれた現象です。性行動のある女性の約80%が、一生に一度は発がん性HPVに感染するほど誰もが感染の経験があるウイルスといえます。子宮頸がん発症の可能性はすべての女性にあるといっても過言ではありません。しかし、発がん性HPVに感染しても、すべての人が子宮頸がんになるわけではなく、ほとんどの場合は一過性で、がんには移行せず、ウイルスは自然に体外に排出されます。まれに感染が持続的になった場合(持続感染)に、子宮頸部の細胞に変化が起こり、がんになる前の状態である前がん病変が発生し、さらにそこからがん化していくと考えられています(図2)。発がん性HPVに感染した女性のうち、子宮頸がんを発症するのは0.1~0.15%程度と推計されています。



図2



## 子宮頸がんは定期的な検診が重要

発がん性 HPV の感染から子宮頸がん発症までは、数年から十数年かかるといわれています。子宮頸がんは、細胞診という検査によって、がんになる前の前がん病変を発見し、がんに行進する前に適切な治療を行うことが可能であるがゆえ、定期的な検診が重要になります。早期に発見できればほぼ 100%完治します。にもかかわらず日本の子宮頸がん検診の受診率は 20%程度と非常に低く、徳島県の場合は受診率が全国平均を下回っているのが現状です。欧米の子宮頸がん検診受診率は概ね 70~80%あります。そのため、受診率向上を目指して全国一斉に子宮頸がん検診の対象者である 20~40 歳の 5 歳刻みの女性に対して無料クーポン券の配布が実施されています。また徳島県では平成 21 年度から施設検診が広域化となり、住所にかかわらず県内すべての産婦人科において自己負担 1,500 円で、一年を通していつでも検診が受けられるようになりました。

## 子宮頸がんはワクチン接種により予防

原因となる HPV の感染を予防するワクチンが発売されたことで子宮頸がんはより確実に予防できる時代になりました。日本でも昨年 12 月 22 日より子宮頸がん予防ワクチンが発売され、接種が可能となりました。このワクチンにより、子宮頸がんの原因として最も関与の高い HPV16 型と 18 型の感染をほぼ 100%防ぐことができます。HPV16 型と 18 型は、日本人の 20~30 歳代の女性における子宮頸がんの原因の約 80%を占めるとの報告もあり、このウイルスの感染を予防することで、子宮頸がんの発症をかなりの割合で予防することができます。ワクチンは、10 歳以上の女性が接種の対象で、日本産科婦人科学会、日本婦人科腫瘍学会、日本小児科学会は、性交経験前の 11~14 歳の女兒を中心に、45 歳までの女性に対して接種を推奨しています。ワクチンは、**当院の産婦人科でも接種が可能**で、注意を要するような重篤な副作用はほとんどありません。

## 子宮頸がんの発症や死亡ゼロを目指して



子宮頸がんはワクチン接種により予防できる時代になり、がんの中で唯一予防できるのは子宮頸がんだけです。しかし、現在のワクチンでは、すべての型の発がん性 HPV の感染を予防することはできないほか、すでに生じている病変に対する治療効果はないため、ワクチン接種後も検診を定期的に受診することが非常に大切です。つまり、ワクチン接種と併せて、細胞診と HPV 検査をすれば、病変の発見率がほぼ 100%になり、結果的に子宮頸がんの予防になります (図 3)。ワクチン接種だけでなく、検診率も向上し、子宮頸がんの発症や死亡がともにゼロになることを願っています。

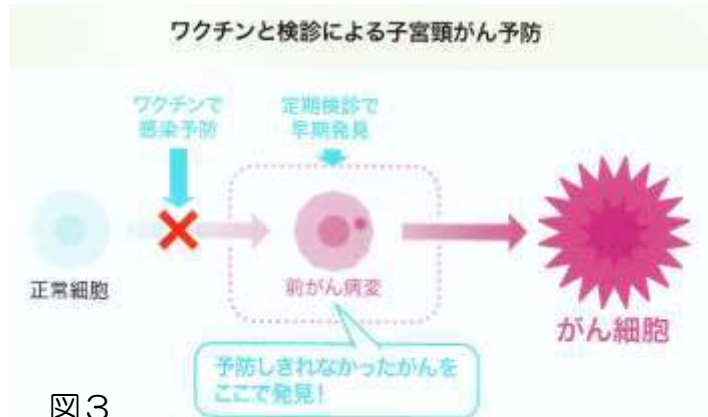


図 3

御意見・御要望がございましたら、ホームページ、または院内御意見箱までお願いします。広報バックナンバーは、ホームページにて御覧になれます。

## シリーズ「三好病院の裏方…委員会活動の紹介」

三好病院では医師・事務・各種コメディカル・看護師で構成された37の委員会・ワーキンググループがあります。シリーズとしてどんな活動をしているのか皆様にご紹介していきます。

### 4. 感染管理委員会と院内感染防止対策チーム

#### 【設置の目的】

院内感染対策の目的は、患者さんや家族・職員・その他病院に出入りする人々が、病院で新たな感染を受けたり、感染を拡大しないように、感染予防や感染拡大防止対策を行うことです。

#### 【活動の概要】

感染管理委員会と院内感染防止対策チームがあります。感染管理委員会は、院長をはじめとする院内の管理責任者を中心に構成し感染対策の方針を決定します。その方針を受け、感染対策を実践するのが、院内感染防止対策チームです。

#### 「感染症」が問題になる理由

- ①感染症と診断されるまでに人にうつしてしまう可能性があります。
- ②人から人にうつり次々と同じ病気の人が増え、時には重症になり命に関わることがあります。

#### 「病院はどんなところ」

- ①病気で身体の抵抗力が落ち感染を受けやすい患者さんが多くいます。
- ②具合が悪く受診される患者さんの中には感染症の方もいます。面会などで病院を訪れる方や職員が感染症にかかっているかもしれません。これらの方が病院で感染することもあります。

このように病院は、家庭や職場などに比べ感染を受けやすく拡がりやすい環境です。

**\* 感染を防ぐためには「予防」と「感染拡大防止」が大切です。**

院内では、感染の危険があるもの「すべての人の汗を除く、血液、排泄物（尿、便）、嘔吐物や目やに、鼻汁、耳汁、膿などの分泌物、傷、粘膜（口の中など）」に触れる、またはそれらで身体が汚染される可能性がある時はマスクや、手袋、エプロン、ゴーグルなどを使用しています。もちろん、手指衛生（手洗い、手の消毒）は基本です。

**\* 感染対策は病院に訪れるすべての人の協力が必要です。**

院内に設置している手指消毒剤、手洗い設備を使用され、みなさんもトイレの後や食事の前など**手指衛生**をお願いいたします。咳や発熱などの症状がある時は、マスク着用など**咳エチケット**にご協力下さい。また、インフルエンザなど**感染症が疑われる時は、受診時に受付にお知らせ下さい**。感染に関する情報を院内に掲示し情報提供も行っていきたくと思いますので、ご協力よろしくをお願いいたします。



## 臨時看護師募集

県立三好病院では臨時看護師、臨時准看護師を随時募集しています。  
詳しくは県立三好病院看護局（内線243）まで